

##見出し

臭いの問題解決に動く

海外3社が賛助会員に

BWC「第116回定例会」

##本文

ベストウールクラブ（略称＝BWC・野村利泰会長）は、12年12月13日、東京・中央区八重洲の日本ふとん製造協同組合（略称＝JFMA）会議室で、「第116回定例会」を開催しました。

定例会は、西岡一則幹事の司会進行により開会。冒頭、野村会長が、「毎年恒例となっている、今年を象徴する漢字として『金』に決まりました。ロンドン五輪のメダルラッシュに始まり、消費税率引き上げ、デフレ問題など、何かと『カネ』にまつわる話題が多く、『カネ』で苦労した厳しい1年でもありました。そうした中で、日頃BWCの活動に協力を頂き感謝しています。今年度最後の定例会ですが、2013年のBWCのますますの発展に向けて、各位の活発な討議をお願いします」旨のあいさつをしました。

引き続き、7つの議案について審議に入りました。

- ① 前回(第115回)レビュー＝後藤稔書記より 報告。
- ② 新入会メンバーの承認について＝賛助会員新メンバーとしてフランス羊毛協会会長であるエリック氏のラルー社、元会長のアルノー社、スタンダードウール社の入会が満場一致で決定した。
- ③ フランス羊毛協会会長エリック氏とのミーティングの結果報告＝
 - (A) 中国で化炭加工した原料の承認:フランス羊毛協会のシッパーが管理している工場であれば、加工を行う国は問わない。但し、スカードのみはヨーロッパ諸国に限定。
 - (B) 今後の活動について:グローバルなふとんの基準について問い合わせ。
 - (C) ウォッシュャブル加工について:エリック氏はスーパーウォッシュ加工が有効との見解。
 - (D) フランス羊毛<アーメリノー種>の提案。
- ④ 羊毛の臭いに関する基準作成について＝Q テック吉崎氏にも参加頂き、検証方法についての討議を行いました。有効な試験として、「残脂率」「清浄度」「酸素計数」「臭気試験」の4種試験を抽出。(但し、臭気判定は官能試験であり、個人差によるブレ等も否めないため、補足的な使用とします。羊毛各種のサンプルに対して、上記の4種試験をそれぞれ劣悪環境と標準環境において試験を行うこととしました。次回の定例会において試験報告を行います。
- ⑤ 製品開発について＝耐洗濯性について、原料加工、生産方法、洗濯方法の各方面から議論を行いましたが、議論が尽きず、時間の都合で次回定例会への持越し議案となりました。
- ⑥ その他＝賛助会員である名川織商、興国繊維商工、カネヨウより最新情報についての報告がありました。
- ⑦ 現執行部任期満了に伴い、二年間の活動総括＝
 - (1) キャンペーンフォーウールへの参加。
 - (2) ウールブレンドクラブライセンスの申請。

- (3) AWIのホームページへのBWC紹介ページの新設。
- (4) BWCホームページのリニューアル。
- (5) 2012年欧州研修旅行の実施、フランス羊毛協会との会談。
- (6) 羊毛の臭いに関する基準作成への取り組み活動を開始。
- (7) 定例会での賛助会員からの情報提供の開始。
- (8) BWC会則の改定。
- (9) BWC会員の増強(国内:興国繊維商工、海外:ラルー社、アルノー社、スタンダードウール社)。
- (10) ウォッシュャブル製品の開発を開始。
- (11) 羊毛ふとんのグローバルスタンダード化に向けての活動を開始。

なお、次回の会合は2月7日(木曜日)に決まりました。

最後に、後藤利広会計監事より閉会の辞があり、定例会は滞りなく終了しました。